Certified Non-Profit Organization（認定特定非営利活動法人）
Buddha Foundation（ブッダ基金）

ブッダ基金　会報
令和３年６月号

# サティハル

## 奉仕が私たちの仕事です

バガワティ学校運動会

水野理事、ﾋﾏﾗﾔﾌﾞｯﾀﾞ基金から表彰

旧友のシヴァ弁護士と再会

カトマンズにある
クマーリ(幼い女神)の家

エベレスト山脈

形岡先生、プムディ村の学校で歓迎

バガワティ学校の子ども達

ブッダ子ども図書館の様子

プムディ村の学校検診

バガワティ学校

【令和３年６月　水野 功理事追悼号　もくじ】

■　水野功さんとともに歩んで来た道/名誉理事長　山口貴司 ..... ①
■　ネパールにおけるスポーツ活動の意義/バガワティ学校 教育長　プラカッシュ・グルン ..... ②
■　ネパール医療体験記（始まり～大学病院）/浜松医科大学第三内科・循環器科　形岡洋光 .... ③
■　私とブッダ子ども移動図書館との関わり II/BCML 館長　イソワリ・ティワリ ..... ④

特定非営利活動法人ブッダ基金
〒432-8021　浜松市中区佐鳴台３丁目 52 番 22 号 TEL&FAX 053-415-8144
E-mail　buddhafoundation1991@gmail.com
URL　https://www.buddha-f.org/

# 水野功さんとともに歩んで来た道

**山口貴司**

ブッダ基金名誉理事長
山口国際ハートクリニック院長

ブッダ基金創立以来の友人であり、教育担当理事として活躍してくださった水野功さんが、昨年（2020 年）10 月に亡くなられました。ここに改めて水野さんの果たした功績を称えつつご冥福をこころよりお祈り申し上げます。

さて、何から書き始めたらよいか、想い出がずっしりあって迷います。彼は家族や仕事や山を愛するが如くネパールをこよなく愛していました。これまでブッダ基金はネパールに幾度となく派遣団を送りましたが、その殆どに参加している事からも分かります。彼が担当した事業として

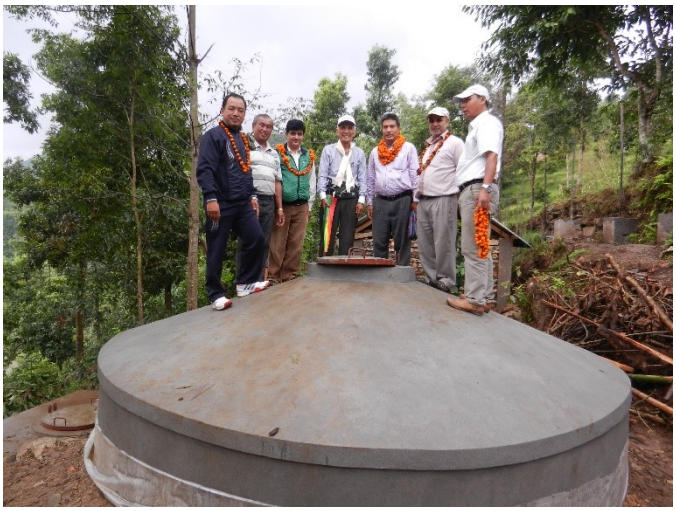
１．ダーディング県サッレ村のビルピーパル学校建設　2006～2010

２．カスキ県バラットポカリ村の小学校建設（浜松ロータリークラブと協力して）2007~2009

３．プムディ・ブムディ村のバグワティ小学校建設と、持続的な教育支援事業とするためのコーヒー園植林事業 2009~今日まで継続

４．ブッダ子ども移動図書館設立と運営 2012~今日まで

彼の努力なくしてこれらの事業は成り立ちませんでした。特にコーヒーの樹を植林し成功させるための灌漑事業と、牛を飼って有機肥料とする発想は水野さん独特のものがあり、自己資金も厭わず注入していました。



ブッダ基金はネパールへ派遣団を送る際には必ず無医村で医療キャンプ（移動診療）を実施してきました。水野さんはその殆どに参加して下さり、率先してボランティアとして働きました。忘れられないのは、副理事長だった原田昌彦氏（産業支援担当）と少年のように生き生きと活動していた姿です。マオイストが占拠していたカルパニ村でやっていた時には、突然姿が消えて皆が心配しネパール人たちが探してくれましたが、山の上まで行ったらマオイストと遭遇して「Hold Up と嚇された」とケロリとしていました。２１次派遣団（2012 年 12 月）では浜松中ロータリークラブの会長であり会員１１名を含む総勢２１名の団長（これまでの最大派遣団）として、ブッダ子ども移動図書館の開館式、ロータリー文庫（日本の子ども絵本を英語・ネパール語に翻訳したもの）贈呈、パメ村への初めての移動図書館などを成功させました。

私にとっていちばん忘れられないことは、2004 年 5 月にブッダ病院が開院し、その記念に実施した無料の検診会で 22 歳の Yam Suba さん（心臓連合弁膜症）を診察した時のことでした。資金があれば心臓病は手術して治る病気ですが、残念ながら会員の寄付金のみの NPO では、こうした個人を救うための余裕はありません。つい、私の口から愚痴が出てしまいました。

これを聞いた水野さんは「資金は僕が何とかするから助けて欲しい」と言います。医療にはお金がかかります。個人を助けていたら小さなNPOはやっていけません。仕方がありません。私は決心して彼女をカトマンズの心臓外科の名医バブワン・コイララ博士に手紙を書き手術を依頼しました。
帰国した水野さんは浜松ロータリークラブや中ロータリークラブの会員に呼びかけて寄付を募り、不足分は彼が出資して８０万円を送りました。その年に手術は成功し、彼女はすっかり元気になりました。

私はネパールへ行くと必ず彼女を診察します。2008 年には９時間歩いて彼女の住んでいるシクルス（グルング族の村）まで往診しました。水野さんの言葉が蘇ります。「こうした助けを求めている人を無視して援助活動などはない」と。大きな喜びと小さな喜び。一人の患者さんが命のあることに感謝して生きているのです。小さな喜びが大きな喜びにつながるように。
以後、私は密かに個人的な努力もするようになりました。
それから、2015 年 4 月にネパールに大地震があり、ブッダ基金も支援活動に参加しました。水野さんは浜松駅前での募金活動の際にはマイクを握り、街を行く人に大声で呼びかけていました。私は隣に立ちながら涙が止まりませんでした。

水野さんはお酒は飲みませんでしたが、話で人を酔わせることができました。武勇伝には事欠きません。水野成夫氏が叔父さんで、戦前の共産党員であったので特高に追われて水野家が押入れに匿った話や、戦後は財界人として成功したので成人の暁には数千万円も頂き、それを株ですってしまった話、東ドイツで警察に追われた話、ロシアで迷子になった話など、時には同じ話を幾度も聞きました。
豪快で磊落、素直で純真、少年のような心を失わない人でした。彼と一緒に活動できたことは幸せでした。私は加藤理事長のもとでもう少し働いてから、水野さんの住んでいるところへ参ります。

2021 年 3 月

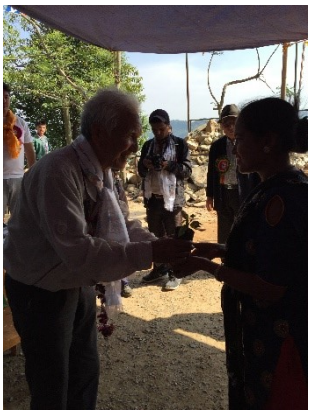
## バガワティ学校教育開発における
## ブッダ基金の役割

**プラカッシュ・グルン**
**バガワティ地区教育長**

バガワティ学校は 1960 年に地元の有志によって設立されました。経済活動が盛んな地域から遠く離れた山間僻地に位置する我が校は、教室、机、校庭、飲料水、トイレ、などどれ一つとっても決して適切な教育環境ではありませんでした。これらを理由に年々生徒数が減少し、他校と合併するリスクさえありました。しかし、子どもや保護者は、私立学校と同様に、英語を中心としたより良い、競争力のある教育を望んでいました。そのためには学校が適切な教育政策を採択し、地域の支援によって教員を採用するという自立に向けた大きな課題にも直面しました。

これらの困難を克服するために、私たちの友人や支援者の努力が実を結び、ポカラ市の NGO ヘラロアカデミーが我々とブッダ基金の橋渡しをしてくれました。依然として政府と NGO の支援には大きな隔たりがあります。我々のような民間学校は政府からは最低限の支援しか得られません。

ブッダ基金からの最初の支援は、財政的自立を図るため、学校の裏山にある 1ha の土地に 1200 本の有機アラビカコーヒーの苗木を植え、農園を作る形で始まりました。この最初の支援が非常に上手く行ったので、ブッダ基金は更に追加で校舎の増築と校庭の拡張を支援下さいました。これらの投資の結果、現在では学校は 8 年生まで増やすことができ、教育大臣も見学に来るほど質の高い教育で知られるようになりました。



コーヒー農園の支援には、有機堆肥肥料、水灌漑、専任コーヒー庭師のために 5 年間資金を提供していただきました。私たちのコーヒーが 2015 年に初めて日本に輸出されたとき、非常に良い風味と香り、そして有機栽培であることが高く評価されました。この良い結果を受け、地域住民もコーヒー栽培に取り組むようになりました。我々の地域ではコーヒー栽培を大いに奨励するようになりました。

山口先生と水野理事は、ブッダ基金創設の主要メンバーで、我々の学校を頻繁に訪問してくれました。水野理事は毎回、通訳の助けを借りて、恵まれない生徒たちへの質の高い教育、規律、明るい未来について熱心に耳を傾けていました。彼は我々の学校のコーヒープロジェクトを山口先生の夢のプロジェクトであるとおっしゃって、その成果を非常に気にかけて下さり、またブッダ基金のメンバー全員がこのために一致団結されていると感じました。訪問の度にコーヒーの生育状況と牛舎を視察されました。

コーヒーの生産量は年々増加しており、今後さらに生産量を増やし、市場を拡大するという大きなビジョンを持って、村人に配るコーヒーの苗木も学校が用意しています。2019 年には遂に本校だけで 250kg 程のコーヒー生豆を生産でき、山口先生のお力添えにより日本の UCC 上島珈琲様に卸すことが実現しました。その売上金は一年間学校を運営するのに充分な資金でした。ここまで来るのに十年近くかかりましたが、その間も諦めず我々を支援し続け、励まし続けてくれた水野理事はじめ、ブッダ基金の皆様は感謝の気持ちでいっぱいです。今私たちの目標は、村人の村人からの支援による村人のための学校運営ができるようになることです。

水野功氏は、これらすべての前向きな結果を達成する上で重要な役割を果たして来られました。

バガワティ学校の生徒から歓迎を受ける水野氏

私たちは水野理事の急逝に衝撃を受けましたが、彼のたゆまぬ努力を称賛し、私たちの目標を達成するために水野理事が私たちにご教示下さった数々の事を今後も実践していく所存です。心よりお悔み申し上げますとともに、私たちの友に敬意を表して、コーヒーガーデンに彼の思い出となるものを設置する予定です。

## ネパール医療体験記（メディカルキャンプ）

形岡洋光
コロンビア・アメリカ
自治大学医学部卒
浜松医科大学第三内科・
循環器科所属
山口ハート国際クリニック
に勤務

今回は旅の後半のバガワティでのメディカルキャンプについてのお話です。
前日まで大学病院や市民病院での救急現場を診た後、現地のブッダ基金スタッフの方々とペワ湖沿いのレストランで現地の郷土料理を頂きました。日本の食事に似た物が多くありましたが、全てスパイスの効いた独特の味を今でも思い出します。
翌日、到着してから毎日エベレストを眺めながらの朝食を終え、ポカラ郊外にあるバガワティの小学校へ向かいました。舗装されていない山道を１時間ほど登り、到着しました。以前にも南米での医療キャンプに参加した時に同様な道と風景を目の当たりにし、驚きました。午前中は各教室を巡り、現地の子供達と授業の見学（地理についてミニレクチャーもしたり）をしました。全員学校周囲の集落に住む子供達で、恐らくは何時間もかけて歩いて通学しているのであろうと、自分なら通学の困難さに折れて不登校になっていたであろうにも関わらず、勉強を笑顔で楽しんでいる子供達の光景は素晴らしかったです。

また、その日の昼食用に先生達が給食室でほうれん草とヤギのカレーを作っていたところも見学させてもらい、スパイスからカレーの作り方を教わりましたが、いまだに家で作れていません。

午後から地域の為の診療を始めました。診察を開始した時には学校の子供達とその保護者の方々を診察していましたので患者数があまりいなかったのですが、その方たちが診察から戻り、「山口先生が来て診察をしている」との噂が風の様にながれたのか周囲の住民達が押し寄せ、一瞬にして待合の教室が満室になってしまいました。
中でも印象に残った症例が、３２歳の女性でバセドウ病と言う病気を持った女性を診察した時でした。この病気はヨウ素が足りないために起るものであり、世界各国では食塩にヨウ素が含まれるようになってからは頻度が下がったと医学史の教科書には記載されていたのを知っていましたし、自分も教科書だけでしか見たことがありませんでした。病態自体も足りないヨウ素を摂取させるだけで改善します。しかし、詳しく話を聞くと彼らは製品化されている食塩を摂取せず、天然の岩塩を使っていることを知りました。当たり前だと思う身近にある食塩も、郊外から更に山奥の住民達にとっては貴重な物であるのを実感しました。残念ながら多くの患者が待っている中であまり時間を費やすことができ無かった為、他にも貴重で稀な症例も早く診る事になってしまいました。最終的には診察が間に合わなかった患者もいたのが唯一の心残りでした。

今回の旅でたくさんの人達と関わる事ができ、日本とは違った視点も持った生き方や普段から当たり前の様に思っている事も、国外では異例だという事を実感しました。今後コロナが落ち着き、診察できなかった人たちに再度会って今度こそ診てあげられるように再度行ける事を楽しみにしています。

形岡洋光

## 私とブッダ子ども移動図書館との関わり ②

**イソワリ・プラサド・ティワリ**
**ブッダ子ども移動図書館(BCML)館長**
＊ブッダ子ども移動図書館はブッダ基金からの支援金によりヒマラヤン・ブッダ基金（HBF）が運営

前回は主に移動図書館活動についてご紹介致しました。今回は図書館活動に関連して行っている活動をご紹介します。

### 学習と学用品の関係

蔵書共有プログラムと読書キャンプでは、山間僻地の学校では教師と教科書の他にノートと鉛筆が学ぶために必要不可欠だと認識しました。子どもは授業を受けたり、学校の宿題をしたりするためにノートや鉛筆が必要ですが、低カーストの多くの家庭は貧しく学用品を購入する余裕がないため何も持たせずに子どもを学校に送り出します。子どもたちは常に先生からノートや鉛筆を持ってくるように言われ自己嫌悪に陥っています。このことから、貧しい生徒に無償で文具の配布を行うようになりました。6,587 人の生徒が 24,420 冊のノートと 6587 本の鉛筆を支給され、彼らの学びに非常に有益であることがわかりました。

### 学校施設の品質向上

一般的に品質向上には多くの要因が関係しています。学校が生徒の全人的な成長を可能にするために多くの施設を必要とすることは誰もが認識している事です。身体的な発達のためのスポーツ施設、豊かな感性を育む芸術には美術室や音楽室、科学や情報技術の知識を高めるための理科室、コンピュータ室など。学校設備が特に貧弱なカスキ地区の 7 つの学校に、ブッダ基金は約 63 万ルピーを寄付しました。

### 快適な椅子
### -学習と学校教育の質向上のための前提条件

学校に 6 時間滞在する子ども達は、快適に勉強ができる机と椅子が必要です。ブッダ基金のボランティアで浜松の家具職人の日下部氏は、Sharada 高校と Janajagaran 小学校にそれぞれ 30 セットの机と椅子をネパールの家具工房を借り、自ら現地で日本から来た職人仲間と作って寄付してくださいました。オーストラリア人ボランティアはスポーツ用品を寄付し、学校での指導を手伝ってくれました。

### 良い視力-学習の前提条件

良い視力は学習の前提条件です。2018 年に始まった眼科検診プロジェクトはブッダ基金の支援により、ヒマラヤ・ブッダ基金が移動図書館車で学校を巡回する際に実施する学校の眼科検診プログラムです。検診数はまだ多くはありませんが、すでに 4 人の生徒の眼病を見つけ治療が施され、良いスタートとなりました。

**緊急事態への対応-社会的説明責任**

2015 年 4 月 25 日の当時ネパール史上最大の地震により、Barpak 村の 7 つの学校はすべて倒壊しました。日本からブッダ基金のメンバー、ヒマラヤ・ブッダ基金と BCML の代表は、文字通り学校を始めるのに何も持っていなかった子ども達を支援するために、2 台のトラックいっぱいに学用品を用意しました。2015 年 5 月 2 日、Barpak 村の 1666 人の子ども全員が、ノートと鉛筆でいっぱいの新しいランドセルを持って帰宅しました。学用品を支給された子ども達は安どの表情にも似た満面の笑顔を見せていました。

2015 年 7 月 30 日、洪水で流された Gyonodaya 小学校の現場視察を行いました。太陽、雨、風から生徒を守るには、校舎は重要な役割をはたします。この実現に伴い、ブッダ基金は 100 万ルピーを学校の復興基金に寄付し、子どもたちの明るい未来を確保しました。現在、子供たちは新しくなった校舎で楽しく勉強しています。

**Covid-19 ネパールにおける風土病と学生の混乱**

このプログラムは、生徒たちがこの閉鎖的で緊張した雰囲気から抜け出すのを助けるために、生徒各自で勉強を進められるようにと地区の教員たちが考案したプログラムです。
ポカラ市の 205 校で学ぶ 1 年生から 3 年生の生徒が教科書を読んで理解できるようにし、勉強への動機づけのために、ヒマラヤ・ブッダ基金はポカラ教育委員会に 7300 冊の問題集を寄付しました。

**ネパールの教育に対する深い懸念**

カースト制でも下層階級のカラバン村プムディにあるバガワティ小学校の子どもたちには明るい未来が待っています。ブッダ基金の支援により、学校の開発全般に取り組んできました。校舎の修繕だけでなく、持続可能な昼食プログラムと貧しい生徒のための奨学金プログラムも支援しています。ネパールの公立学校は政府の割り当て金だけでは必要な教員を採用することもできないため、地元の負担金が大きい。バガワティ小学校のように低カーストの家庭が多い地域では学校の運営は更に深刻です。そこで学校の自立した持続可能な運営のために１０年前から学校の裏山にコーヒーの苗を１２００本植え、コーヒー豆の販売によって学校の運営を試みる取り組みを行ってきました。学校コーヒー園は困難の連続でした。土壌の改良や、水やりの問題、雹による被害、品質の良い豆の栽培方法等枚挙にいとまがありません。そのような中でも地区教育長のプラカッシュ氏による探求心、陣頭指揮によりコーヒー園は子ども達の学びの場となっただけでなく 2019 年には 250kg の生豆を収穫するまでに至りました。年間の学校運営には約 16 万円必要で、１０年目にして初めて必要額を満たすことができました。現在では地区のコミュニティ管理学校のモデル校としてネパール教育大臣や多くの関係者の視察先となっています。また、外国人観光客の訪問ルートにもなっており、多くの観光客が学校で栽培されたコーヒー豆を買い求めています。

**ブッダ基金のネパールでの慈善活動の歴史は 2000 年までさかのぼる**

多くの農村地域へ移動図書館車で学校訪問の際、村人はいまだにブッダ基金が無料医療キャンプを実施していた時の事を語ります。自分たちの地域で行われた無料健康診断や薬の提供についてどんなにありがたかったかという話をよく耳にします。13,193 人の患者に対する地域医療支援は、簡単に成し遂げられるものではありませんでした。重症患者の方が現在は普通の生活を送れている姿を見るにつけ、私たちはブッダ基金と一緒に取り組んだ全ての努力に価値があったと感じています。

＜サティハル＞とは、ネパール語で「友達」という意味です。皆様との繋がりが深まることを願っています。

## 第 20～21 期の活動計画（2021 年 4 月現在）

ブッダ基金は次の 4 分野を柱に活動を進めています。
医療・教育・女性の自立・産業振興

■ブッダ子ども移動図書館（BCML）
僻地の学校で図書活動を通し識字教育を普及し、ネパールの将来の人材を育成する。

■眼科検診活動
識字教育の障害の眼病早期発見と治療を目指す。

■学校コーヒー園プロジェクト
学校運営資金と体験学習の両立による持続可能な教育を推進。

■ヒマラヤ・サブレ・プロジェクト
ネパール土産となる製品の開発・生産・販売をネパールの女性が主体となり貧困からの自立を支援。

■スポーツ振興プロジェクト
スポーツ活動を通し健全な子どもの育成を推進。

■その他（災害支援、医療人材育成活動等）
その時々に必要な支援を単発で機動的に実施。

## 役員及び事務局メンバー

2021 年 4 月現在

理事長：加藤義一
名誉理事長：山口貴司
理事：石垣　清、鬼頭秀行、鈴木一也、渥美喜重次、眞瀬悦邦、日下部　善昭、武山克彦、片岡俊彦、
監事：鈴木祐介、藤原孝行
事務局：戸田純子、山田清美

【スタッフ紹介】
事務局・戸田純子　（2016 年 4 月から勤務）
栃木県那須郡生まれ。2013 年に主人の転職に伴い、浜松に来ました。主に会計業務と Web サイトの更新を担当しています。今後ともよろしくお願い致します。

ご寄付ありがとうございます

個人：鈴木 洋雅様、庄司 濵子様、田中 久重様、中条 操様、森 宏太朗様、山口 貴司様、西澤様、小松様、J.T.様、加藤 義一様

法人：株式会社 しるく印刷社様、(有)ヨシトヨ様

**ブッダ基金**は、**認定 NPO 法人**です。

認定ＮＰＯ法人への寄附は、所得税と住民税の控除が受けられます！
個人の方の場合、所得税と住民税で、寄附金額の最大約 50% が税額から控除されます。(寄附される方の所得額によります。)
★「寄附金控除」を受けるには、確定申告を行う必要があります。寄附金受領書を「申告書に添付」、または「申告書提出の際に提示」が必要です。
「寄附金受領書」を紛失しないようご注意下さい。
ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。

日頃はブッダ基金の活動にご支援、ご協力いただき、ありがとうございます。今後も医療・教育・産業・女性の地位向上などの支援を継続し、更に支援の輪を広げていく所存であります。皆様の温かいご支援を引き続きお願いすると共に、この活動に参加していただける方のご勧誘をお願い申し上げます。

＜年会費＞

| | | |
|---|---|---|
| 正会員 | 一口 | 12,000 円 |
| 個人賛助会 | 一口 | 6,000 円 |
| 団体賛助会員 | 一口 | 30,000 円 |

振込先①
ゆうちょ銀行　振込口座　口座番号：00890-7-104787
名　義　　特定非営利活動法人 ブッダ基金
※ 他の金融機関からお振込みいただく場合
ゆうちょ銀行　金融機関コード：9900　店番：089
預金種目：当座　　店名：０八九（ｾﾞﾛﾊﾁｷｭｳ店）
口座番号：0104787
名義：特定非営利活動法人 ブッダ基金

振込先②
静岡銀行　可美支店　普通　口座番号：0450295
名 義　特定非営利活動法人ブッダ基金
代表理事 加藤義一

※ 郵便局へのお振込みの際は、お振込用紙へお名前、ご住所の記載を、静岡銀行へお振込みの際は、お電話、FAX、またはメールにてお名前とご住所をお知らせください。寄附金受領書、領収書を発行させて頂きますので、ご協力をお願い致します。